

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 老年看護学分野
科目コード:250005

老年看護演習Ⅱ(認知症看護) Advanced SeminarⅡ in Gerontological Nursing

担当教員	北村言				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	45		
Keywords	アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症の診断基準と症状、BPSD、倫理、他疾患の合併				
学習目的・目標	認知症の機序と治療方法、診断技術を理解し、重症度とBPSDのアセスメント能力を身につけ、認知症高齢者と家族の生活障害と心理的苦悩の理解に基づいた看護実践ができる。 ・認知症の疾患、重症度、BPSDのアセスメント方法が説明でき、実施できる ・認知症の治療と薬物治療について理解できる ・認知症高齢者の生活をアセスメントでき、リスクマネジメント、自立した生活援助に結びつけた看護が説明できる ・幅広いニーズを有する認知症高齢者と家族の支援について、医療、保健、福祉の多方面の支援の必要性が説明できる ・医療現場において治療を要する複雑な問題を有する認知症高齢者に対するキュアとケアを統合した専門的で高度なケア実践を考えることができる				
授業計画・内容					
《授業展開の方法》 ・認知症の各疾患の診断基準、症状、進行に関する講義と自主学習により、認知症看護の特徴を理解して、具体的な看護実践を学ぶ。 ・認知症高齢者及び家族の手記を読んで、発表しあうことで看護の方向を討議する。 ・生活の援助の実際を講義と文献から学び、疾患の症状、BPSDに関連する要因の多様性を踏まえた看護実践を考える。					
回数	内容			授業方法	担当
1	ガイダンス 現在の認知症高齢者及び家族、看護の捉えかたを討議する			討議	
2-4	【フィールド演習】			演習	
5-6	認知症疾患の機序、診断と治療方法 ・認知機能評価(MMSE,HDS-R,CDR) ・アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症の診断基準と症状・治療			講義	
7-8	認知症・BPSD・生活の関係を理解した生活援助の実際 ・認知症高齢者の日常生活に大きく影響する症状の理解(徘徊(歩行過多)、入浴、排泄の生活障害)と看護援助 ・認知症高齢者の残された力の見方と問題となる行動の対応			プレゼンテーション 討議	
9-10	認知症高齢者の視点からみた心理的苦悩の理解 ・認知症高齢者の手記を通して、中等度・高度認知症高齢者の体験世界を理解し、重症度別、疾患別のコミュニケーション方法を学ぶ。			討議	
11-12	認知症高齢者における環境の影響(入院、入所時における環境の意味)			講義 討議	
13-14	認知症高齢者における倫理的問題			講義 討議	
15-18	【フィールド演習】			演習	
19-22	他疾患で治療を要する認知症高齢者の看護			講義 プレゼンテーション	
教科書					
参考図書等	適宜紹介する				
評価指標	発表(20%)、討議への参加度(30%)、レポート(50%) *レポート締め切りは授業最終日の2週間後とする。				
関連科目	老年看護演習Ⅰ				
教員から学生へのメッセージ	認知症の病態・症状の理解をベースに、多角的に対象者を捉え、討議を通して認知症高齢者への看護実践を考えていきましょう。				